

「戦前の東大哲学科と『哲学雑誌』」に関する注記

笠松 和也

「戦前の東大哲学科と『哲学雑誌』」の原稿本文と資料集では、東大教員の就任・退任年月日はすべて『東京大学百年史 資料三』第六部「一覧・図表」中の「四 主要人事一覧」に依拠しました。しかし、原稿提出後、この主要人事一覧に関しては、典拠が不記載であるという資料上の問題に加え、公文書と食い違う箇所があるとの指摘を受けました。そのため、今後の調査によって、東大教員の就任・退任年月日（特に月日）が訂正される可能性があります。

現在のところ、東大哲学科関連では、大島正徳の退任年月日について、既に公文書との食い違いがあることが分かっています。『東京大学百年史』によれば、大島は1925（大正14）年9月24日に助教授から教授に昇進し、翌25日に「依願免本官」の扱いで退任しているとされています。ところが、東京大学文書館所蔵の『職員進退録 大正十四年（甲）』に収録されている公文書を調べたところ、大島の教授就任を命じた文書は、1925（大正14）年5月13日付で文学部長（服部宇之吉）から総長（古在由直）に送付されていました。また、「依願免本官」の上申書も同日付で文学部長から総長に送付されています。したがって、大島の正確な教授就任日は5月13日、退任日も同じく5月13日です。なお、大島は教授退任後も哲学科講師として教鞭を執りましたが、講師の嘱託を通達する文書は、同年9月30日付で文学部長から総長に送付されています。

上記の調査に際して、快く資料の探索を引き受けてくださった東京大学文書館特任助教の秋山淳子先生、学術支援職員の小根山美鈴先生に感謝いたします。